



「つながりをいかして、だれもが 尊厳をもつていきることが できる社会」の実現をめざして

社会福祉法人京都府社会福祉協議会

会長 小畑 英明



新年明けましておめでとうござい
ます。

皆様におかれましては、日頃から京
都府社会福祉協議会の活動に対し、深
い御理解と御支援を賜り、心から御礼
申し上げます。

さて、近年、国内においても自然災
害が頻発する中、京都府内においては、
市町村社会福祉協議会や関係機関、ボ
ランティア団体が連携し、災害ボラン
ティアセンターや避難所支援に取り組
んでいます。

平時から研修・訓練、ネットワー
クづくりに継続的に取り組み、被災地に
駆けつけるボランティア、地域で声を
掛け合い助け合う住民、要配慮者への
きめ細かな支援に取り組む福祉関係者
など、支え合いの力が確実に広がって

きています。

特に、昨年の大分県大規模火災では、
地元の社会福祉法人の職員が避難所ま
での移動支援に迅速に取り組まれたこ
とで多くの方々の命を救ったとの報道
がありました。こうした取り組みの背
景には、平時から地域での支え合いに
よる安心して暮らせる地域づくりの実
践があり、世代や立場を超えた交流の
重要性がますます高まってきていると
感じています。

私たちを取り巻く環境は、少子高齢
化の一層の進行、単身世帯の増加、地
域のつながりの希薄化など、複雑かつ
複合的な課題を抱えています。また、
困りごとを抱える方々を専門機関へつ
なぐ民生児童委員やボランティア活動
者など地域福祉の支え手が減少してい

ます。

こうした中、京都府社会福祉協議会
としても支援を必要とする人を早期に
発見し、孤立しない地域づくりを進め
ていくことが重要な使命であると、改
めて強く感じております。

「つながりをいかして、だれもが尊
厳をもつていきることができる社会」を
つくるという基本理念のもとに、こど
も食堂やこどもの居場所を支えるネッ
トワークづくり、包括的支援体制の構
築や身寄りのない高齢者等の生活課題
に応える「総合的な地域福祉権利擁護」
を実施していきます。

また、「温ったか京都・寄り添いワ
ーカー」を中心とした生活困窮者支援、
社会福祉法人が協力して社会的養護施
設退所者を応援する「あす・いろプロ

ジェクト」、社会福祉施設における業務
改善支援の取り組みなどを通して、誰
一人取り残されず、尊厳や生きがい
を感じ豊かに生きることが出来る地域づ
くりをより進めてまいります。

今年は、「ひのうま丙午」の年に当たります。

「丙」は火の性質を持ち、陽のエネルギ
ーを象徴し、「午」もまた火の性質に属
するため、「丙午」は「火と火」が重な
った、非常にエネルギーが強い組合
わせのことです。つまり「情熱」「エ
ネルギー」「行動力」「改革」がキーワ
ードとして、新しいことを始めるには
最適な年と言われています。

皆様におかれまして、本年が素晴ら
しい一年となりますことを心からお祈
り申し上げ、新年の御挨拶といたします。

